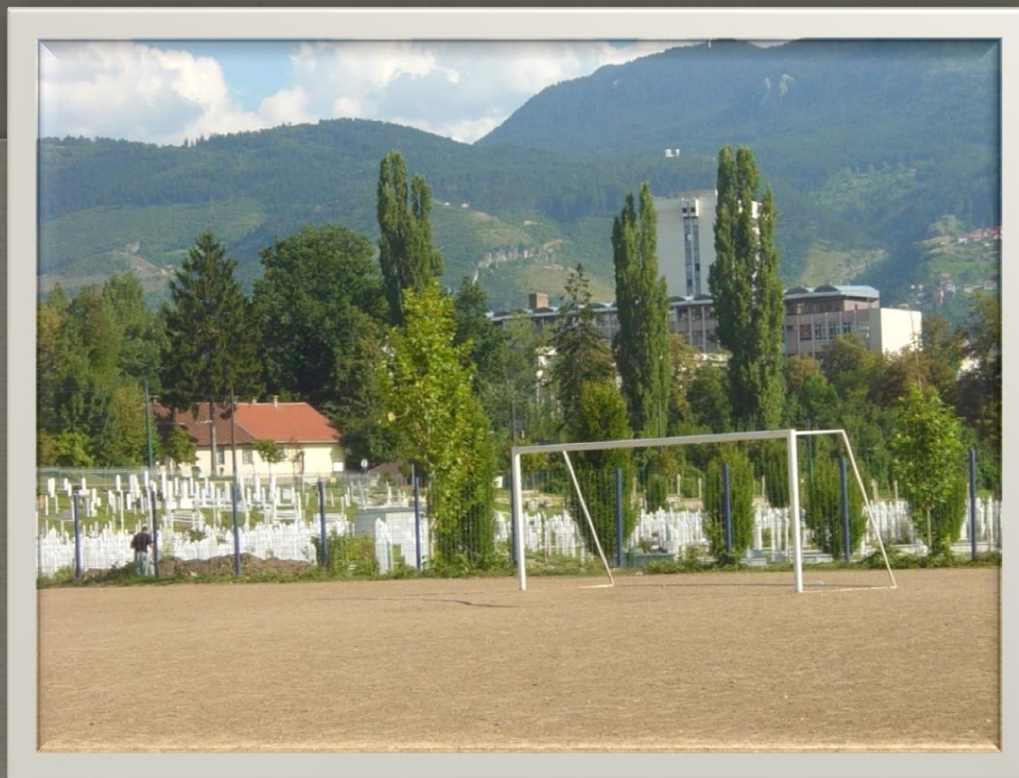


国際協力におけるスポーツを通じた教育について



大阪大学大学院 人間科学研究科
岡田千あき

Sport is a universal language.
It unites people and cultures and helps to build
bridges for peace.
It can be a powerful catalyst for social change.
That is why the United Nations supports using sport
to promote equality and social inclusion and help
achieve the Millennium Development Goals.

(Ban Ki-moon, 2013)



2020年に東京を選ぶことは、オリンピック運動の一つの新しい力強い
推進力を選ぶことを意味します。なぜならば、われわれが実施しようと
している「スポーツ・フォー・トゥモロー」という新しいプランのもと、日本
の若者は、もっとたくさん世界へ出ていくからです。
学校をつくる手助けをするでしょう。
スポーツの道具を提供するでしょう。
体育のカリキュラムを生み出すお手伝いをするでしょう。
やがて、オリンピックの聖火が2020年に東京へやってくる頃までには、
彼らはスポーツの悦びを100を超す国々で1000万人以上の人々へ直
接届けているはずなのです。

(安倍晋三, 2013)

スポーツを通じた国際協力・開発

‘sport-for-development’, ‘sport for development and peace (SDP)’,
‘sport, social development and peace’, ‘sport in development’,
‘international development through sport’, ‘sport and international development’
etc.



スポーツの開発 (Development of Sport)

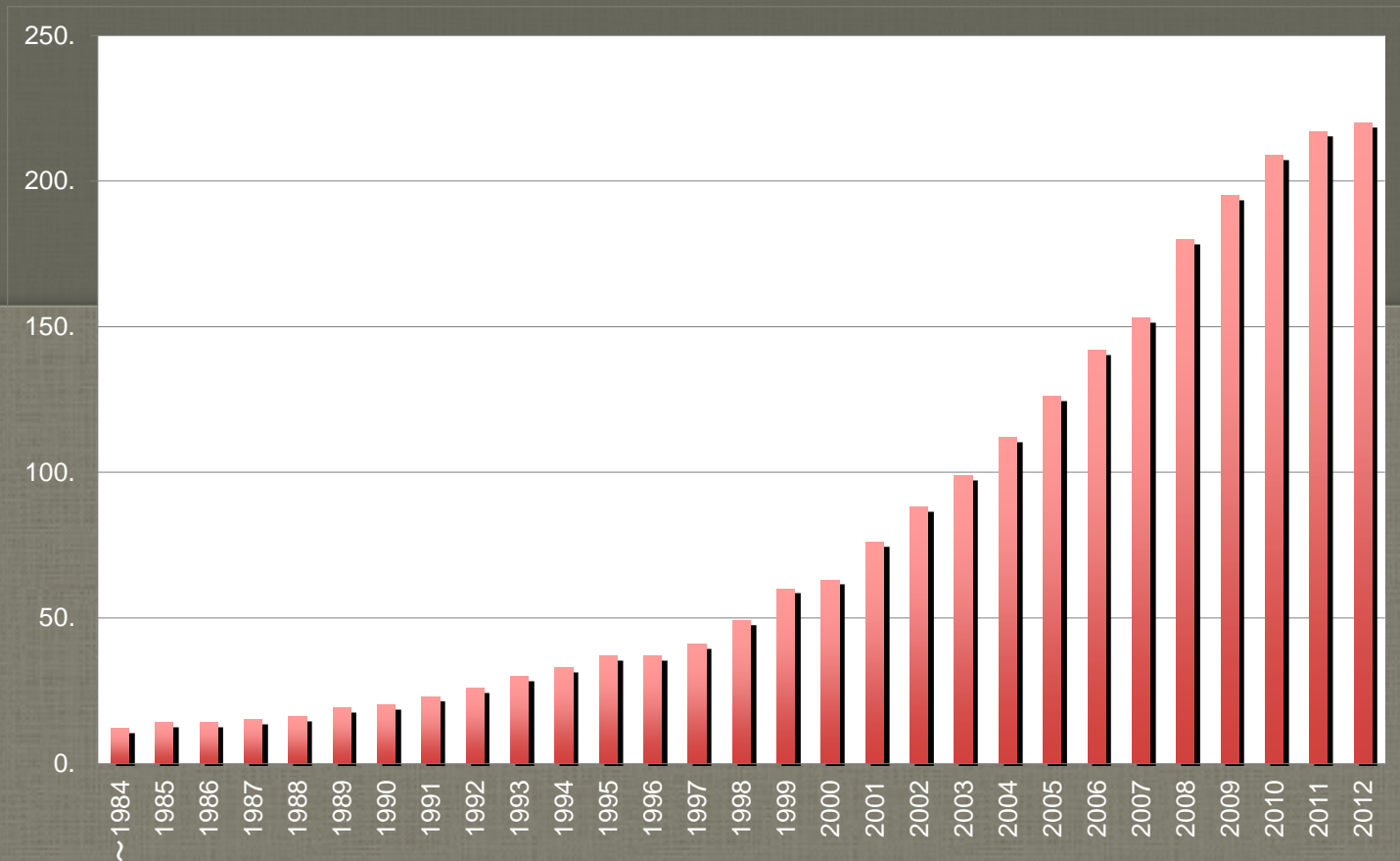


スポーツと開発 (Development and Sport)



スポーツを通じた開発 (Development through Sport)

分野の国際的動向 I



スポーツを通じた開発NGOの累積数

出典：鈴木(2015)NGOによるスポーツを通じた国際協力、齊藤、岡田、鈴木編「スポーツと国際協力」

分野の国際的動向 II

- | | |
|-------|--|
| 2001年 | 国連 開発と平和のためのスポーツ事務総長特任
(UN Secretary-General on Sport for D&P) |
| 2002年 | 国連 開発のためのスポーツ連絡協議タスクフォース
(UN Inter-agency Task Force on Sport for Dev.) |
| 2003年 | 第1回 スポーツと開発国際会議
(1 st Magglingen conference on Sport & Dev.) |
| 2003年 | スポーツと開発の国際プラットフォーム
(International Platform on Sport & Dev.) |
| 2004年 | 開発と平和のためのスポーツ国際ワーキング
(International Working Group on Sport for D&P) |
| 2005年 | スポーツと体育の国際年
(International Year for Sport and P.E.) |
| 2005年 | 第2回 スポーツと開発国際会議
(2 nd Magglingen conference on Sport & Dev.) |
| 2008年 | 国連開発と平和のためのスポーツオフィス
(United Nations Office on Sport for Development and Peace : UNOSDP) |
| 2009年 | 国連 開発と平和のためのスポーツ事務総長特任交代
(UN Secretary-General on Sport for D&P) |
| 2012年 | ユース・リーダーシップ・プログラム
(Youth Leadership Program : YLP) |
| 2013年 | 開発と平和のためのスポーツ国際デー
(International Day of Sport for Development and Peace) |

具体的なテーマ

- 教育と人材育成 (Education, Capacity Building)
- 社会統合 (Social Integration)
- トラウマケア (Overcoming Trauma)
- 紛争解決 (Conflict Resolution)
- 平和構築, 民族融和 (Peace-Building, Reconciliation)
- ジェンダー (Gender Equity)
- 経済開発 (Economic Development)
- 社会開発 (Community Development)
- 保健, 衛生 (Health Care, Public Health)
- 環境 (Environment)

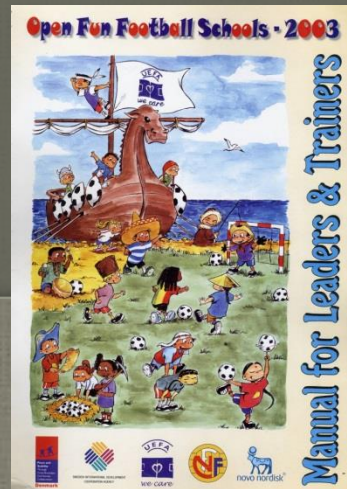
ジンバブエの事例：HIV/AIDS啓発×スポーツ



マレーシアの事例：青少年教育×スポーツ



ボスニア・ヘルツェゴビナの事例：民族融和×スポーツ



南スーダンの事例：平和構築×スポーツ



大学生が国際協力をするということ

国際協力(開発途上国)の現場の視点から

- 支援する技術がない？ 専門性の提供 ×
- 言語の問題は？ 労働力の提供 ×
- 物資の提供？ △

大学生の参加動機は...

開発途上国に行ってみたい・見てみたい、助けてあげたい、子ども達と触れ合いたい、友達を作りたい、貢献したい、将来のための経験
etc...

交流、きっかけ、将来に向けた投資の意味合い

大学の役割、教員の責任、様々な制約

大学という組織の視点から

【カンボジアボランティアツアー】

- 2002年より年1, 2回(11月、年によって2月or3月に)開催
- 約1週間の日程で費用(約15万円)は全て参加者負担
 - ⇒年によって異なるが大体
航空券・宿泊の受注型企画旅行(9万)、活動費(3万)、
添乗・現地交通費・通訳(2万)、観光・食事等(1万)
- これまでの参加者(主に大学生)は560名超。
- シェムリアップ州他で、小・中学生対象のスポーツフェスティバル
(サッカー、バレー、バスケ、陸上、レクリエーションの5種目)を行う
- カンボジアの小中学生のこれまでの参加者は、約15000名
- フェスティバル開催の他に、アンコールワット観光、孤児院訪問、
地雷博物館見学、同世代の若者とのサッカーマッチなどを行う
- 事前準備として、5月に参加者募集、6月参加者決定、7・8・10月に
安全管理を中心的な内容とした「参加者説明会」を開催
- 活動内容については、SNSなどを用いて、出発までに班ごとに
⇒⇒この方法が通用しなくなってきており、現地で1日確保

大学の役割、教員の責任、様々な制約

大学という組織の視点から

大学統合後・・・

教員個人が学生を連れて開発途上国？けしからん！



OB/OGの力を借りて、一般社団法人“Sport Flight”設立



今年・・・

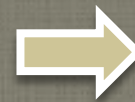
授業の場で特定の団体の宣伝をしている？けしからん！

背景には、外務省の渡航情報の存在

大学の役割、教員の責任、様々な制約

大阪大学でできることには限界が...

競技力を上げたい！
(特に中高生)



国際武道大学

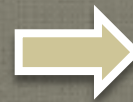
大阪大学
Sport Flight

保健衛生教育も必要！



神奈川県立
保健福祉大学

組織運営も経験させたい！



尚美学園大学
OASIS Japan

※その他、複数のNPOや学生団体が様々な形で参加

実際にあるリスク

変えられないリスク要因

- 空気感染する病気の存在
- 食べ物を始めとした衛生状態
- 病院の質
- 宿泊先の質(予算との関係)
- 現地でのサポート体制
- 様々な相互理解
- ノウハウの蓄積

変えられるリスク要因

- 日程が長い
- 活動地が遠い
- 活動の回数が多い
- 初めての参加者が多い※
- 受け入れ側が初めて

リスク要因の減少は明らかであり、
活動はやり易くなっているはず...



College Cafe by NIKKEI から

大学生の間ではさまざまな活動に積極的に参加し、自分を成長させる努力をする人を「意識高い系（笑）」と、冷やかすような風潮があります。そのため、自ら行動するのをためらう人も多いと聞きます。でも、米ハーバード大

日経新聞 2015年6月2日

なぜ、わざわざ大学生が開発途上国でスポーツ指導をするのか

途上国側の理由

- スポーツへの注目度の低さ
(特に教育・生涯スポーツの文脈)
- スポーツ予算の欠如
(施設・用具・学校)
- 人材の不足
 - 子どものスポーツ機会そのものが決定的に少ない
- 多様なニーズを有する
(大阪大学、国際武道大学、個人参加、NPOの参加など)

大学生(の教育)側の理由

- コミュニケーション能力を鍛える
 - 対 日本人学生間
 - 対 異文化
- 隔絶された空間での生活(一般学生?)
 - 同じものを食べ、同じ行動をする経験
 - 先輩・後輩の関係
 - 小さな「社会」での自分の役割
- 成果が見える、自分が役に立つ経験
 - すぐに、直接的に成功が見える
- 子ども達の笑顔の威力
- 楽しさと真面目さの共存

ご静聴ありがとうございました！

皆さんも是非いかがですか？

大阪大学 人間科学研究科

岡田千あき chiaki@hus.osaka-u.ac.jp

一般社団法人 スポーツフライト

<http://sportsflight.jp/>

